

■ これまで約 11 万人が受講した大人気講座 ■

## 第 49 回 「関西大学飛鳥史学文学講座」を開講

【期 間】4月16日（日）～ 2024年3月3日（日） 各回 13:00～15:00 <全 13 回>

【場 所】明日香村中央公民館（奈良県高市郡明日香村）

関西大学ではこのたび、「2023 年度 飛鳥史学文学講座—やまと・あすか・まほろば塾—」（全 13 回）を、4月16日（日）から 2024年3月3日（日）にかけて、明日香村中央公民館にて開講します。

本件の  
ポイント

- ・本学考古学陣による高松塚古墳の壁画発見を契機に、研究成果の社会還元を目的に開講した講座
- ・2023 年度で開講 49 年目、通算 500 回超、延べ受講者数約 11 万人と根強い人気を誇る
- ・明日香村とは古墳・遺跡発掘調査や古墳関連史跡の世界文化遺産登録に向けた活動等で連携

極彩色壁画で有名な高松塚古墳の発見をきっかけとして 1975 年に開講し、今年で 49 年目（通算回数 500 回超）を迎える本講座。継続して受講するリピーターも多く、シニア層を中心に根強い人気を誇ります。一方、熱心な若い世代や近畿圏外からの受講者もおられ、これまで延べ約 11 万人が受講しました。1972 年の故網干善教助教（当時。後に名誉教授）ら本学の考古学陣による世紀の大発見から、50 年を経てもなお、その人気はまだまだとどまる所を知りません。

講師には、本学の文学・歴史・文化遺産学の専門家である教授陣に加え、学外から作家の玉岡かおる氏や元宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査官で本学客員教授の徳田誠志氏、世界文化遺産登録を目指す明日香村村長の森川裕一氏、明日香村教育委員会文化財課の西光慎治氏、天王寺楽所雅亮会副理事長で本学客員教授の小野真龍氏らを招きます。初回の 4月16日（日）は、「陵墓にみる律令国家のすがた —藤原不比等の描いたこの国のかたち—」と題して、本学文学部の米田文孝教授が講演します。

本学では今後も、県や村が取り組む古墳関連史跡の世界文化遺産登録を目指した事業など、一層の連携強化に取り組んでいきます。

### <2023 年度 第 49 回 飛鳥史学文学講座—やまと・あすか・まほろば塾— 概要>

【開講期間】4月16日（日）～ 2024年3月3日（日） 13:00～15:00 <全 13 回>

※特別講のみ 10:00～12:00、詳細スケジュールは次ページご参照

【場 所】明日香村中央公民館（奈良県高市郡明日香村川原 91-1）

【定 員】200名 【受講対象者】飛鳥時代をはじめとする歴史や文化に興味関心をお持ちの全ての方

【受 講 料】年間受講料5,000円（税込）、1講座のみ受講は1,000円（税込）

※明日香村在住者ならびに、本学学生、本講座に興味のある中高生は無料

【受講申込にかかる問合せ先】関西大学教育後援会 飛鳥史学文学講座係 TEL:06-6368-0055

【主 催】関西大学飛鳥文化研究所、明日香村教育委員会

【過去3年間の実績】2022年度:2,008名、2021年度:1,531名、2020年度:1,481名（延べ受講者数）

▼イベント詳細 <https://www.kansai-u.ac.jp/pa/event/asuka.html>

取材に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当:玉村、明原、中村

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

[www.kansai-u.ac.jp](http://www.kansai-u.ac.jp)

## ■ <2023年度 飛鳥史学文学講座> スケジュール・講師・テーマほか

### 【趣 旨】

1972年、故網干善教助教授（当時。後に名誉教授）率いる関西大学の考古学陣が、日本初となる高松塚古墳の壁画を発見した。本講座はこの未曾有の大発見を契機に、本学の研究成果を広く社会に還元することを目的として企画されたもので、本学飛鳥文化研究所と奈良県明日香村の共催により実施している。これまで延べ約11万人が本講座を受講し、2023年度で開講49年目を迎える。

2022年に世紀の大発見から50周年を迎え、本学では県や村が取り組む古墳関連史跡の世界文化遺産登録を目指した事業など、一層の連携強化に取り組んでいる。

### 【スケジュール】 ※開催時間は13:00～15:00、特別講のみ10:00～12:00

講	日 程	講 師・テーマ
1	4月16日	関西大学文学部教授 米田 文孝 「陵墓にみる律令国家のすがた ー藤原不比等の描いたこの国のかたちー」
2	5月14日	関西大学文学部教授・なにわ大阪研究センター長 乾 善彦 「歌物語としての『古事記』下巻 ー歌物語最終章 清寧・顕宗条ー」
3	6月11日	作家・関西大学客員教授 玉岡 かおる 「万葉人と大海原Ⅱ ー大和から海のかなたへー」
4	7月9日	関西大学文学部非常勤講師 今尾 文昭 「飛鳥で最後の王墓群 ー持統天皇と中尾山古墳・高松塚古墳ー」
5	8月6日	関西大学文学部教授 井上 主税 「新羅月池（雁鴨池）の構造および出土遺物の特徴」
6	9月10日	関西大学副学長・文学部教授 藤田 高夫 「漢字を受容するということー古代漢字文化の諸相（三）ー」
7	10月8日	関西大学文学部教授 長谷 洋一 「湛海律師と公慶上人 ー情熱あふれる近世奈良の高僧ー」
8	11月12日	関西大学文学部教授 西本 昌弘 「豊浦宮と小墾田宮を考える」
9	12月10日	関西大学客員教授 徳田 誠志 「飛鳥の陵墓と古墳時代の終焉 ー「古墳」の終わりと「日本」の始まりー」
10	2024年 1月14日	明日香村教育委員会文化財課課長補佐・関西大学文学部非常勤講師 西光 慎治 「キトラ古墳壁画発見40周年 飛鳥の壁画古墳とその造営意義」
特別	2月11日	明日香村村長・関西大学客員教授 森川 裕一 「飛鳥・藤原の世界遺産登録 ー国づくりの息吹を今、飛鳥で感じるー」
11	2月11日	天王寺楽所雅亮会副理事長・関西大学客員教授 小野 真龍 「変貌する秦河勝 ー天王寺楽人と猿楽師の祖神ー」
12	3月3日	関西大学文学部教授 黒田 一充 「奈良県の頭屋行事 ー家に祀る神ー」

以 上